姉妹・友好都市の祭り

川越まつりをはじめ、さまざまな祭りがある川越。そして姉妹・友好都市でも、魅力あふれる祭りが行われています。ここでは、姉妹・友好都市の祭りの一つをご紹介します。

マイン川祭り

オッフェンバッハ市（ドイツ）

同市最大の祭りで、毎年七月の第二土曜日と日曜日にスポーツや文化関係の百三十もの団体が参加。いろいろな料理や各国の特産品を楽しみに、約五万人が訪れます。

祭りの中心の「ビューズィング宮殿」にはステージが設けられ、スポーツ・歌・ダンス・ファッションショーなどが披露されます。

オレゴン・ステート・フェア

セーレム市（米国）

百四十年の歴史があり、オレゴン州の農産物や特産品が一堂に集まり、移動遊園地もやって来ます。

ことしは八月二十五日から九月四日まで、市の中心から車で十分ほどの「フェア・グラウンド」で開催。ジャズコンサート・展覧会・手工芸品の品評会なども行われ、四十万人が来場しました。

モルバン音楽祭

オータン市（フランス）

最もさわやかな時期である七月に開催され、毎年一万人の観光客が訪れます。

フランス国内外から合唱団やオーケストラが招待され、街角コンサートを開きます。夜になると、演奏者と共に見物をしている人もサン・ラザール大聖堂まで行進します。今や風物詩として、オータン市民の誇りになっています。

十万石棚倉城まつり

棚倉町（福島県）

四月中旬、桜の名所の亀ケ城公園（棚倉城跡）を会場に、「お国替え籠競争」「餅つぶて御前試合」など、楽しいイベントが開催されます。

川越からは、「川越藩行列保存会」が参加しています。小学生の鼓笛隊パレードと共に武者行列を行い、本会場では「松平周防守御郷帰りイベント」を披露します。

放生祭

小浜市

八幡神社の氏子である町衆が、九月の第三土曜日と日曜日に繰り広げる若狭地方最大の秋祭り。三百年以上の歴史を誇り、「神輿」「山車」「神楽」「大太鼓」「獅子」の五種類の出し物が特徴です。芸や囃子を披露しながら巡行します。

笛や太鼓、かねの音が秋風に流れ、小浜のまちはみやびな祭り一色に染まります。

中札内花フェスタ

中札内村（北海道）

昭和五十年代から取り組んできた「花のむらづくり」をアピールし、「花づくりの輪」を広げるため、毎年七月二十日から八月十日まで開催。

村内の個人宅や企業・団体から募集した自慢の花壇を、自由に鑑賞できます。期間中は「道の駅なかさつない」に設けられた総合案内所で、花めぐりマップを配布します。

まちのできごと
川越市の面積は109.16㎢

109パレット

環境問題と国際化をテーマにアースデイ

子どもたちが丸太切り体験

環境問題について考え、国際理解を深めることを目的に、10月1日、「アースデイ・イン・川越2006」が開催されました。市内の市民団体・大学・企業など30団体以上が、会場の鏡山酒造跡地に集まり、展示やステージ発表などを行いました。「同じ地球人として、きれいな水と空気を残していくための取り組みが広がってほしいですね」と実行委員長の鎌田政稔さん（66歳・菅原町）。

民族衣装のファッションショー

ご当地ナンバーの皆さんが出店、ことしのさんぱく

10月21日・22日、川越運動公園で行われた「川越産業博覧会」。ことしは「川越ナンバー」の導入を記念して、同じくご当地ナンバーを取得した「伊豆ナンバー」の三島市、「那須ナンバー」の那須町（栃木県）、「川越ナンバー」から、鶴ケ島市と越生町が参加しました。来場した皆さんは名産品を購入したり、試食したり……。さまざまなコーナーでの催しに、秋の1日を楽しんでいました。

重さは、ピッタリかな？

ステージでは、ご当地ナンバーの自治体の皆さんが観光と特産品の紹介を行いました

飲酒運転を許さない！　芳野地区の取り組み

飲酒運転を撲滅するため、地域全体で立ち上がった芳野地区。10月29日、芳野支会（北條一雄支会長）を中心に同地区の全団体が協力して、農業ふれあいセンターに650人を迎え「芳野地区飲酒運転撲滅大会」が開催されました。川越警察署の講演・映画上映や、小学生の代表が「大人へのお願い」を朗読したあと、参加者全員で「飲酒運転は決して許さない」をスローガンとする「芳野地区飲酒運転撲滅宣言」を行いました。

宣言書を手に、地域代表の皆さん（上）
芳野地区に住む1割以上の皆さんが集合。飲酒運転撲滅に対する、意気込みを感じました（右）

川越びと 30

永冨なみ子さん（18歳・小ケ谷）

永冨さんは、小学生から成人まで、毛筆の部で八千点以上の応募があった「高円宮杯」書写書道大展覧会で、「内閣総理大臣賞」を受賞しました。

「高校生活最後の年に、栄誉ある賞を受賞できてうれしいです」と笑顔で話す永冨さん。

書道は、小学校三年生から、両親の勧めで始めました。現在は、週五日、放課後に練習をしています。書道の魅力は、墨の香りの中で書いていると気持ちが落ち着くところだそうです。

応募に際して選んだ字は、中国の古典から「衆生咸蒙斯福」。「この字は、高校の書道部に入部してから書き続けています。字の形が好きなので、これからも書いていきたいと思っています」。

賞状を手に笑顔の永冨さん

また、「地域のお姉さん」として、子どもたちと遊んだり面倒を見たりする、ジュニアリーダーとして活動しています。子どもたちからは、よき相談相手として親しまれています。

来年からは、大学生。これからもサークル活動などで、書道を続けていきたいと思っているそうです。